

<b>文部科学大臣賞</b> <small>「個人・グループ・学校」分野</small>	受賞者名 <h2 style="text-align: center;">SPLEA ICVs</h2>
	取組の実践場所 <b>愛知県、京都府、福岡県、沖縄県、大阪府、東京都</b>
	受賞テーマ <b>すべての子どもに行き届いた教育を                  ～家に眠るリユース品をカンボジアの子どもたちへ～</b>
<p>受賞者は、2012年3月から東南アジアのカンボジア北部オドウメンチェイ州およびシェムリアップ市への国際教育支援を、スポーツ教育学を専攻する大学教員とその学生らと大学協同で行っているボランティア活動団体である。2012年から2024年3月までの12年間、17期に渡りカンボジア北部を中心に訪問し教育活動を支援するとともに、日本の市民から預かった寄付物（以下、リユースと表記）を旅行キャリア満杯に詰め、教育活動に参加した子どもたちや先生たちへ直接手渡しをして利用してもらう活動を行っている。</p> <p>※ SPLEA ICVs (Sport and Physical Literacy Education for All, International Cooperation Volunteers)</p>	
<p><b>1. 取組内容：文房具、運動用具、衣類、玩具等のカンボジアでのリユース</b></p> <p>カンボジアの北部に位置するオドウメンチェイ州のチョンカル郡では、小学校へ通う子どもたちはノートや鉛筆などの勉強道具が十分でない経済状況にあることから、体育・音楽・図画工作・科学・英語等の提案授業、運動会や運動文化祭の開催、スポーツフェスティバルの開催、放課後活動支援、児童養護施設や乳児院訪問などを中心に教育支援活動を行い、その活動に参加する子どもや教師に「参加賞」として文房具や運動用具などのリユース品を渡している。</p>	
<p><b>2. 取組のポイント：12年間、6都府県10大学におけるリユース品の国内収集</b></p> <p>立ち上げ当初は2県4大学であったが、現在では6都府県10大学の教員や学生で組織され、これまで延べ1,381名の学生登録があった。この学生らがリユースされる文具類や運動用具などを収集するために、大学ごとにメディアリリースやSNS、学園祭、大学行事、母校訪問等を使い、全国の家庭やお店などに眠っている未使用のリユース品を収集するための知恵を出し合い収集を行っている。</p>	
<p><b>3. 取組の独自性：現地への直接運搬と参加学生の意識変革</b></p> <p>一般的には国外への支援に直接参加することは困難なため、次世代を担う大学生が、国内活動を行う学生も一体となって学友や市民へ働きかけ、提供者の想いが込められたリユース品を収集する。それを現地渡航する学生らが直接自身の旅行キャリアケースに詰め込み、現地へと持ち込む。そして子ども一人一人に確実にリユース品を渡す必要があるため、直接持参して直接手渡す方法が最も確実である。さらに学生らにとって、ノートや鉛筆などの日用品をもらい大喜びをする子どもを目の当たりにすることによって、モノに対する見方や社会に対する考え方など様々な意識変革が生じる。例えば、カンボジアへ持参する道具には極力ビニール袋やプラスチックを用いない工夫や廃棄されない道具を選択したり、国内での自身の生活において廃棄を避けるための会議を発足したりするなど、国際教育協力の中のリユース活動によって、学生自身に新たな文化が注入されることに繋がる。</p>	
<p><b>4. 今後の予定：2024年8月および2025年2～3月渡航に向けてリユース収集継続中</b></p> <p>2024年度は、昨年度と同様に2025年の2～3月の渡航に向けて各大学が新たなメンバーを募集し、カンボジアへ持参する文房具や運動用具、楽器、衣類などのリユース品の収集を開始している。毎年8月に教員が実地調査に出向くが、その際にも数名の学生を引率し、数名で可能な教育支援を組み込むため、早速8月に向けたリユース収集を急いでいる。</p>	



カンボジアの子どもの文房具



廃校の倉庫にあった体育用具



新聞記事で集まった文房具類



ホテルで文具の袋詰め作業



活動後に文具一式を手にピース